

梅鶯仏教壮年会報

第114号
2014年
1月19日

1月例会

期日：1月26日（日）

時刻5時～6時半

プログラム

お勤め

法話

『浄土真宗のみ教え（序）』

放談会（自由に話しましょう）

仏教讃歌斉唱

目には見えない空気が
出る息 吸う息
私を生かしてくれる。

仏陀（みほとけ）の教を
聞くとー
そういう事実気づき
自然に「ありがとう」
と思う。

寺川幽芳先生
「こころの掲示板」より



新年のご挨拶

田中善博

新年あけましておめでとうございます。旧年中は、皆様方には、大変お世話になりました。ありがとうございます。さいました。



さて、梅鶯仏教壮年会も創設されて、早いもので10年が過ぎました。

お陰様で、会員の皆様方のご理解、ご協力で、いろいろな行事の参加者も増加し、壮年会が毎年盛り上がりつつあることは、大変喜ばしいことです。また、平成17年度から開催いたしました「正信偈を味わう」シリーズが、住職様のご指導のおかげで、平成25年5月の例会で最終回を迎えました。新年度は、新しい内容で例会開催の予定です。

昨年「親睦旅行」は本山参拝と京の紅葉狩りを行いました。初日に龍谷ミュージアム鑑賞、本山両堂参拝、御堂演奏拝聴、飛雲閣、そして夜には、懇親会の夕べと、大変盛り上がりしました。二日目は、本山の朝勤行に参拝し、朝食後、銀閣寺・永観堂・南禅寺の紅葉狩りを行いました。

古今集に「モミジの永観堂」と詠まれるほど、歴史深い建築物が秋色に染まる絶景は、忘れられない美しいものでした。つぎに「報恩講」は、本年より法輪寺と合同で勤修し、午前午後法要、説教、懇親会と、例年になく多くのお参りがありました。

これは、梅鶯会員の参加のお陰と感謝しております。そして、年末の12月30日には、竹灯籠の夕べとして、前日積もった雪で、かまくらを作り、雪灯籠として点灯いたしました。とても風情のあるものとなりました。

最後に、今年も有意義な壮年会活動となり、楽しい例会を企画し、梅鶯仏教壮年会のさらなる発展を願い、新年の挨拶とします。合掌

北村宗吾さまから、昨年十一月の仏教親睦旅行紀行文を、ご寄稿いただきました。

旅行時の一コマ一コマが、思わずよみがえってくる、大変読みごたえのある内容です。

次号に掲載予定です。是非

題材法話

本年もこうして、梅鶯仏
の一年の締めくくりとし
て、除夜会を迎えられまし
たこと、嬉しいことであり
ます。

○九条武子さま
九条武子さんという浄土
真宗の歴史上、忘れてはな
らない方がおられます。

いだかれて
ありとも知らず
おろかにも
われ反抗す
大いなるみ手に

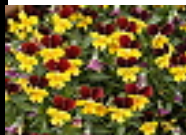
あれを見よ
明日は散りなむ
花だにも

生命（いのち）の限り

ひと時を咲く
といった詩がよく知られて
います。西本願寺の第2
1代のご門主明如上人の次
女で、明治20年にお生ま
れになった方です。

今のご門主が第24代で

すから、3代前のご
門主の次女というこ
とで、あのシルク口
ド探検隊で有名な



大谷光瑞門主とはご兄弟に
なられます。九条武子さまは、歌人と
しても有名ですが、同時に
優れた教育者でもありまし
た。

宗門における仏教婦人会
という組織の創設に尽力さ
れたり、仏教を基盤とした
女性の専門学校が必要だと
いうことで、今の京都女子
大学を設立されたことでも
有名です。

また同時に、幅広く社会
福祉活動に取り組まれたこ
とでも有名で、大正12年
に起こった関東大震災の時
には、ご自身も被災者であ
りながら、震災による負傷
者や孤児達の救援活動に、
献身的に尽くされました。

その無理がたたって、4
2歳という若さでご往生な
されたのですが、その命日
の2月7日を「如月忌」と
呼び、宗門、特に仏教婦人
会では大切な日として毎年
法要が勤められています。

○少女更正施設

九条武子さまの幅
広い社会福祉活動の幅
中でもよく知られて



いるのが、非行少女の更正
施設である「六華園」を創
設されたことです。

何らかの理由により非行
に走ってしまった少女を立
ち直らせようとする施設な
のですが、そのような施設に
はまだまだ不十分な時代に
あつて、特に少女を対象と
した施設はほとんど無かつ
た時に「六華園」という施
設をおつくりになったので
す。

その「六華園」にこんな
話が残っています。仮にA子
收容されしました。仮にA子
ちやんと呼びます。仮にA子
裕福な家庭に育つた比較的
が、どういいうけか万引き
をする癖があり、それが治
らないのです。

ちよつと目を離すと六華
園を抜け出してデパートへ
行き、万引きをしてしまふ
のです。警察の方でも、「なんや
またあの六華園の不良かい
な」と、ろくに取
調べもしないで、す
ぐに自動車で六華園
まで送ってきたそう



です。そういつたことが実に十
三回続いたそうですが、本
人には悪いことをしたとい
う反省が全然見られない。

そこでまた十四回目を犯
した時のことです。今度は
警察の方でも堪忍袋の緒が
切れて、「本願寺は甘過ぎ
る。監督が不十分だ」と今
回は警察の方で処置する
うに、と、強硬な申し入れ
があつたそうです。

「警察で処置」とは、六
華園には帰さずに、少年院
等の施設に収監するとい
うことです。六華園では仕方なく、当
時の施設長であつた森川さ
んが、緊急職員会議を開き
話し合いを行いました。

結論は、全員が「もうお
手上げです。更正の見込み
はないから、警察に渡しま
しょう」ということになり
ました。

そこで森川施設長は、園
長である九条武子夫人に報
告しなければと思ひ、
夫人の部屋を訪ねま
した。つづく

除夜会住職法話

